

KAN
MON
KAI

株式会社関門海
平成28年3月期
第3四半期 決算説明会資料
(証券コード3372)

目次

1. 平成28年 3 月期 第 3 四半期業績概要
2. 平成28年 3 月期 業績予想
3. 経営戦略・施策

会社概要

創業	昭和55年9月 創業者山口聖二が大阪府藤井寺市にてとらふぐ料理「ふぐ半」を開店
設立	平成元年5月
代表者	代表取締役社長 田中 正
子会社	株式会社関門福楽館（※）平成28年3月をもって壇之浦PAのテナント契約終了 株式会社だいもん（※）現在、事業活動を休止しております
事業内容	とらふぐ料理専門店「玄品ふぐ」の運営およびFC展開、その他店舗運営等
資本金	6億4,771万円（平成27年12月末日現在）
上場	東証マザーズ（コード番号：3372）
決算期	3月
従業員	143名（152名）※（ ）関門福楽館を含む
本社	大阪市西区北堀江2丁目3番3号
店舗数	グループ全体：100店舗 ・玄品ふぐ：87店舗 ・その他：13店舗 （平成27年12月末日現在）

平成28年3月期第3四半期 店舗概要

平成28年3月期第3四半期 店舗状況



主力業態：玄品ふぐ（87店舗）

ふぐ、かに提供店舗（4店舗）

- ・ふぐ・かに専門 玄品 新宿南店
- ・玄品 以蟹茂 浜松町店
- ・ふぐ・かに専門 玄品 南越谷店
- ・周防町 別玄

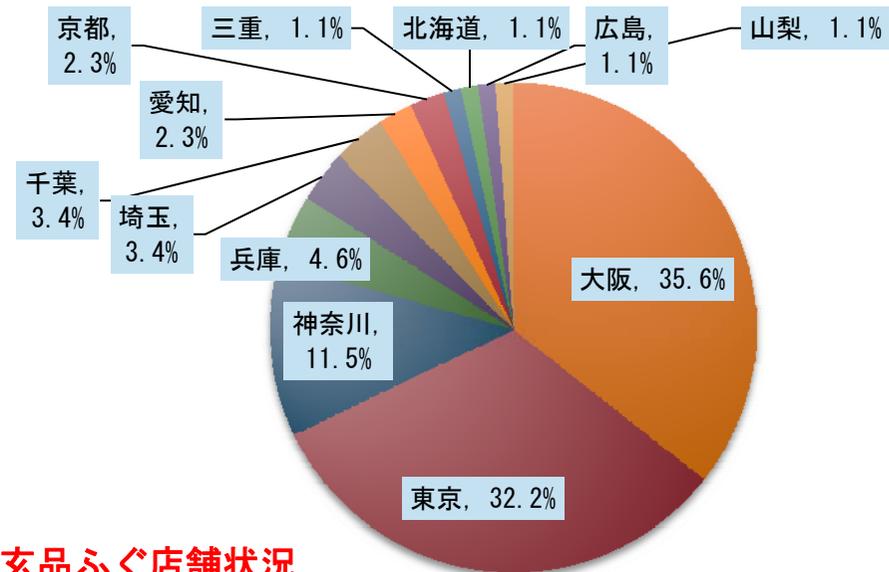
その他（8店舗）

- ・BAR DE G（バルデゲー）
- ・ARIA.C（アリアッチ）
- ・ちやぶマイル（複合施設6店舗）

壇之浦パーキングエリア（関門福楽館）

壇之浦PAは平成28年3月をもって契約終了

玄品ふぐ店舗分布図



玄品ふぐ店舗状況

直営店舗：前連結会計年度末から2店舗減少し45店舗

FC店舗：前連結会計年度末から1店舗増加し42店舗

閉店店舗

- ・元住吉の関（直営）：不採算による閉店
- ・五反田の関（FC）：オーナーの判断により閉店

FC→直営

- ・平塚の関：採算可能店舗による直営化

直営→FC

- ・大船の関：社内独立制度によるFC化
- ・自由が丘の関：該当エリア売上実績のある企業へFC化

エリアFC

- ・山梨甲府の関：甲州エリア初の出店

経営方針

経営
基本方針

創業者理念
経営者理念
基本方針

「食で世の中を変える、幸せにする、明るい未来実現に貢献する」
「真に食を愛する者が関門海という集団を形成し、社会に貢献する」
「世の中から必要とされ継続的に繁栄するビジョナリーカンパニーとなる」

戦略
タスク

営業戦略
組織戦略
設備戦略
調達・物流戦略
財務・経営戦略

地域特性を明確に捉えオンリーワン店舗として常連客のリピートが絶えない店にする
人財の育成と労働環境の整備
空間の改善による顧客満足度の向上とC Iの組織内外への浸透化
安心、安全で安価で安定的な在庫確保および正確な物流
財務基盤の充実、キャッシュフローの確保

営業戦略	商品開発	玄品ふぐの商品力強化
	インバウンド	訪日外国人向けの施策強化
	エリアFC展開	山梨甲府の関（平成27年9月オープン） 名古屋錦本町の関（平成28年2月オープン）
組織戦略	社内教育制度	全従業員に対して、お客様の満足度を高めるため、接客・商品知識の研修を強化
	労働環境	研修の実施、評価制度、従業員満足度に関する社内アンケート、福利厚生の実施、労働環境、処遇の改善実施
設備戦略	店舗改装	直営店舗の改装
財務 経営戦略	財務基盤の充実	株式会社ヤタガラスホールディングス様からサントリー酒類株式会社様へ主要株主の異動

トピックス

平成27年4月	大阪城 お花見・夜桜イルミネーションへ玄品ふぐ店出店
平成27年7月	株式会社関門福楽館「壇之浦パーキングエリア」の運営終了の決議
平成27年7月	女性限定イベント実施「とらふぐと丹波産有機野菜のコラボレーション」
平成27年9月	甲信越地方初の「玄品ふぐ山梨甲府の関」開店（エリアFC）
平成27年9月	南風泊市場で関門海として初めて「初競り」に参加し、今年最初の天然とらふぐを競り落とす
平成27年10月	大阪マラソンEXPO 2015・大阪うまいもん市場へ出店
平成28年1月	「霜降り白菜」一部店舗にて期間限定で提供実施
平成28年2月	株式会社ヤタガラスホールディングス様からサントリー酒類株式会社様へ主要株主の異動
平成28年2月	「玄品ふぐ名古屋錦本町の関」開店（エリアFC）

1. 平成28年3月期 第3四半期業績概要

平成28年3月期第3四半期 連結損益計算書

(百万円)

	H28年3月期 第3四半期		H28年3月期 第3四半期		H27年3月期 第3四半期		増減額	
	10月-12月 (会計)		4月-12月 (累計)		4月-12月 (累計)		金額	前期比
売上高	1,729	100.0%	3,582	100.0%	3,504	100.0%	78	102.2%
売上原価	572	33.1%	1,168	32.6%	1,113	31.8%	55	105.0%
売上総利益	1,157	66.9%	2,413	67.4%	2,390	68.2%	23	101.0%
販売費及び 一般管理費	925	53.5%	2,509	70.1%	2,462	70.3%	47	101.9%
営業利益	231	13.4%	△96	△2.7%	△72	△2.1%	△23	△33.3%
営業外収益	4	0.3%	11	0.3%	17	0.5%	△5	66.9%
営業外費用	19	1.1%	73	2.0%	63	1.8%	10	115.8%
経常利益	216	12.5%	△157	△4.4%	△117	△3.4%	△39	△33.3%
特別利益	-	-	-	-	7	0.2%	△7	-
特別損失	3	0.2%	8	0.3%	27	0.8%	△19	30.6%
税金等調整 前当期純利益	213	12.3%	△165	△4.6%	△138	△3.9%	△27	△19.6%
法人税等	78	4.6%	△34	△1.0%	△20	△0.6%	△13	△65.0%
当期純利益	134	7.8%	△131	△3.7%	△117	△3.4%	△13	△11.1%

直営店舗の回復基調による増収

◆売上高
27年3月期と比較し78百万円の増収

28年3月期増加要因として、

- ・「玄品ふぐ」直営既存店売上高は、前年対比104.6%（89百万円）
- ・インバウンド消費拡大による売上高増加
- ・近隣法人営業の取組みが、売上高の増加に貢献
- ・壇之浦PAの夏期の繁忙期やシルバーウィーク期間中の集客増によるもの 4百万円

◆営業利益
27年3月期と比較し23百万円の減益

◆売上原価

- ・昨年は安価でとらふぐの一括仕入れをおこなったが、本年は価格が高騰した影響と販売強化を目的とした、新たな季節メニューの上質化により、原価率0.8%上昇

◆販売管理費

- ・エリアFC加盟開発の積極的な展開による開発経費等の増加
- ・営業強化を目的に、商品開発部・食材開発部の新設等で本部機能の充実を図ったことによる人件費等の増加

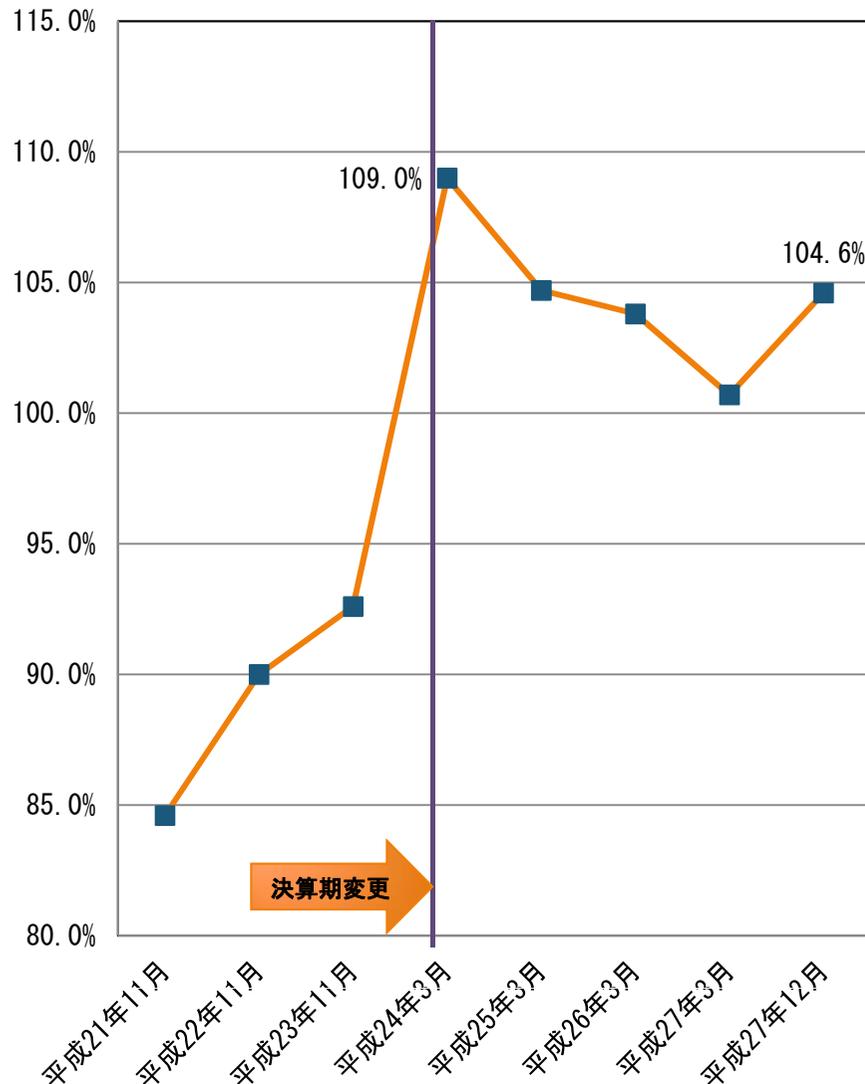
◆特別損失

- ・不採算店舗の閉鎖に係る、店舗閉鎖損失を8百万円計上（元住吉）

平成28年3月期第3四半期 連結損益計算書

直営既存店売上高（前年対比推移）

（前年対比）



◆平成21年～平成23年

東日本大震災以降の一般消費の急激な落ち込み、リーマンショックの影響、多角化経営を進めたことによる業績悪化。施策として不採算店舗の閉鎖による収益性の改善を進める。

◆平成24年

代表取締役社長 田中正の就任による新体制への移行、「玄品ふぐ」事業への原点回帰を柱とし、現場力強化、新規顧客獲得への施策を開始。魅力ある店舗空間の設備投資計画を策定。

◆平成25年～

直営店舗5ヶ年計画を打出し、永遠のテーマである「人の関門海」の実現に向け、人事・組織戦略・社内教育を重視し、また直営店舗の改装工事を行い、お客様満足度のさらなる向上を図る。近隣法人営業・インバウンド戦略も効果があがり既存店売上も安定した推移となっている。

決算概要／連結貸借対照表（1）

（百万円）

	H28年3月 第3四半期末		H27年3月 3月期末		増減額	増減要因
	金額	比率	金額	比率		
流動資産合計	2,791	63.7%	2,619	61.7%	172	
現金及び預金	629	14.4%	833	19.6%	△203	・閑散期が長いことによる支出増加およびとらふぐ購入資金充当のため
売掛金	266	6.1%	138	3.3%	127	・玄品ふぐの繁忙期によるクレジット等の増加によるもの
商品及び製品	1,672	38.2%	1,478	34.8%	193	・とらふぐの一括購入で翌年繁忙期までの在庫を確保
原材料及び貯蔵品	16	0.4%	13	0.3%	2	
その他	219	5.0%	166	3.9%	52	・繰延税金資産の増加52百万円
貸倒引当金	△12	△0.3%	△12	△0.3%	0	
有形固定資産合計	817	18.7%	884	20.8%	△66	
建物及び構築物	692	15.8%	725	17.1%	△33	・所有不動産の売却および店舗閉鎖等による減少59百万円直営店舗POS全店導入による増加34百万円
その他	125	2.9%	158	3.7%	△33	
無形固定資産合計	47	1.1%	13	0.3%	33	
その他	47	1.1%	13	0.3%	33	・直営店舗POS全店導入による増加35百万円
投資その他の資産合計	723	16.5%	731	17.2%	△7	
差入保証金	648	14.8%	654	15.4%	△6	
その他	89	2.0%	91	2.1%	△1	
貸倒引当金	△13	△0.3%	△13	△0.3%	0	
固定資産合計	1,588	36.3%	1,629	38.4%	△40	
資産合計	4,379	100.0%	4,248	100.0%	131	

決算概要／連結貸借対照表（2）

（百万円）

	H28年3月 第3四半期末		H27年3月 3月期末		増減額	増減要因
流動負債合計	4,051	92.5%	3,815	89.8%	236	
買掛金	216	5.0%	126	3.0%	89	・繁忙期による仕入の増加によるもの
短期借入金	1,447	33.1%	1,304	30.7%	143	・とらふぐ調達資金の新規借入200百万円 借入金の返済 △56百万円
1年内返済予定の 長期借入金	1,980	45.2%	2,038	48.0%	△57	・借入金の返済 △82百万円（長期借入金を含む）
未払金	295	6.7%	221	5.2%	74	・繁忙期による販管費増加によるもの
未払法人税等	22	0.5%	28	0.7%	△6	
賞与引当金	23	0.5%	35	0.8%	△12	
その他	65	1.5%	60	1.4%	5	
固定負債合計	131	3.0%	105	2.5%	25	
長期借入金	22	0.5%	46	1.1%	△24	
その他	109	2.5%	58	1.4%	50	・直営全店POS導入による長期リース債務60百万円増加
負債合計	4,182	95.5%	3,920	92.3%	△262	
株主資本合計	195	4.5%	327	7.7%	△131	
資本金	647	14.8%	647	15.3%	0	
資本剰余金	756	17.3%	756	17.8%	0	
利益剰余金	△920	△21.0%	△788	△18.6%	△131	・当期純損失の計上によるもの
自己株式	△287	△6.6%	△287	△6.8%	0	
その他の包括利益	-	-	-	-	-	
新株予約権	0	0.0%	-	-	0	
純資産合計	196	4.5%	327	7.70%	△130	
負債・純資産合計	4,379	100.0%	4,248	100.0%	△131	

2. 平成28年3月期 業績予想

平成28年3月期 計画／連結損益計算書

(百万円)

	H28年3月期 第1四半期 (会計)		H28年3月期 第2四半期 (会計)		H28年3月期 第3四半期 (会計)		H28年3月期 第3四半期 (累計)		H28年3月期 (予想)	
売上高	911	100.0%	941	100.0%	1,729	100.0%	3,582	100.0%	5,450	100.0%
売上原価	287	31.5%	309	32.8%	572	33.1%	1,168	32.6%	1,733	31.8%
売上総利益	623	68.5%	632	67.2%	1,157	66.9%	2,413	67.4%	3,717	68.2%
販売費及び 一般管理費	783	86.0%	800	85.0%	925	53.5%	2,509	70.1%	3,487	64.0%
営業利益	△159	△17.5%	△168	△17.9%	231	13.4%	△96	△2.7%	230	4.2%
営業外収益	4	0.4%	4	0.4%	4	0.3%	11	0.3%	9	0.2%
営業外費用	27	3.0%	26	2.8%	19	1.1%	73	2.0%	79	1.4%
経常利益	△182	△20.1%	△191	△20.3%	216	12.5%	△157	△4.4%	160	2.9%
特別利益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特別損失	0	0.0%	5	0.8%	3	0.3%	8	0.3%	30	0.6%
税金等調整前 当期純利益	△182	△20.1%	△196	△20.9%	213	12.3%	△165	△4.6%	130	2.4%
法人税等	△51	△5.7%	△61	△6.5%	78	4.6%	△34	△1.0%	60	1.1%
当期純利益	△130	△45.5%	△135	△43.8%	134	23.5%	△131	△11.3%	70	1.3%

3. 経営戦略・施策

□ 戦略の方向性

- 営業戦略
- 設備投資戦略
- 組織戦略
- 財務・経営戦略

□ 株価推移状況

営業戦略

商品の妥協なき開発

感動を与えられる商品を提供し、全てのお客様に満足していただく

2015 初競り



天然とらふぐの販売強化
白子のコースメニュー定番化

四季メニューリニューアル
春霞膳、夏安居、秋津膳

福メニュー

イートインメニュー

- ・こら一玄ぷでいん（ぷりん）
- ・福ぜんざい

テイクアウト

- ・玄煎
- ・玄品辣油

催事・屋台メニュー

- ・とらふぐバーガー
- ・とらふぐまん

福土産

- ・こら一玄ぷでいん（ぷりん）
- ・福ぜんざい
- ・ゆびき

「天然とらふぐ」と「とらふぐ白子」で美味しさと客単価UP

四季メニューでとらふぐの更なる魅力をアピール

・上質なコラーゲンを使用した玄品ふぐでしか提供できない商品や催事（屋台）等でしか食べられない限定メニューを提供

・イベント等で気軽にとらふぐ料理の美味しさや親しみをもっといただく機会を提供すると共に、店舗への来店動機をつくる

福（ふく＝ふぐ）を呼び込む商品

来店率向上

CS向上

施策効果

➤玄品ふぐの魅力を伝え、リピーター顧客からの収益向上を図る

インバウンド需要の取り込み

国内外旅行代理店と連携して団体ツアー誘致強化

中国の旅行代理店からの団体ツアー誘致の強化を図ると共にインバウンド誘致に強い国内旅行代理店との連携強化

訪日外国人（中国人旅行客アプリ）「Yokochō」販促実施

旅行者への情報系ツールとしての位置づけにより、行政機関や中国国内の大手旅行代理店からのアプリインストール販促との連携が可能となり、拡販強化へ繋げる



外国人向けの店内サービス強化

▶体験型のサービスを提供

- ・ 記念撮影の無償実施等
- ・ フリーWi-Fiスポット提供
- ・ 銀聯カード対応
- ・ 語学力のあるスタッフ配備
- ・ 三ヶ国語メニューの配備（中国語、韓国語、英語）

店内サービス強化⇒口コミ（SNS、フェイスブック）を通じて集客力向上



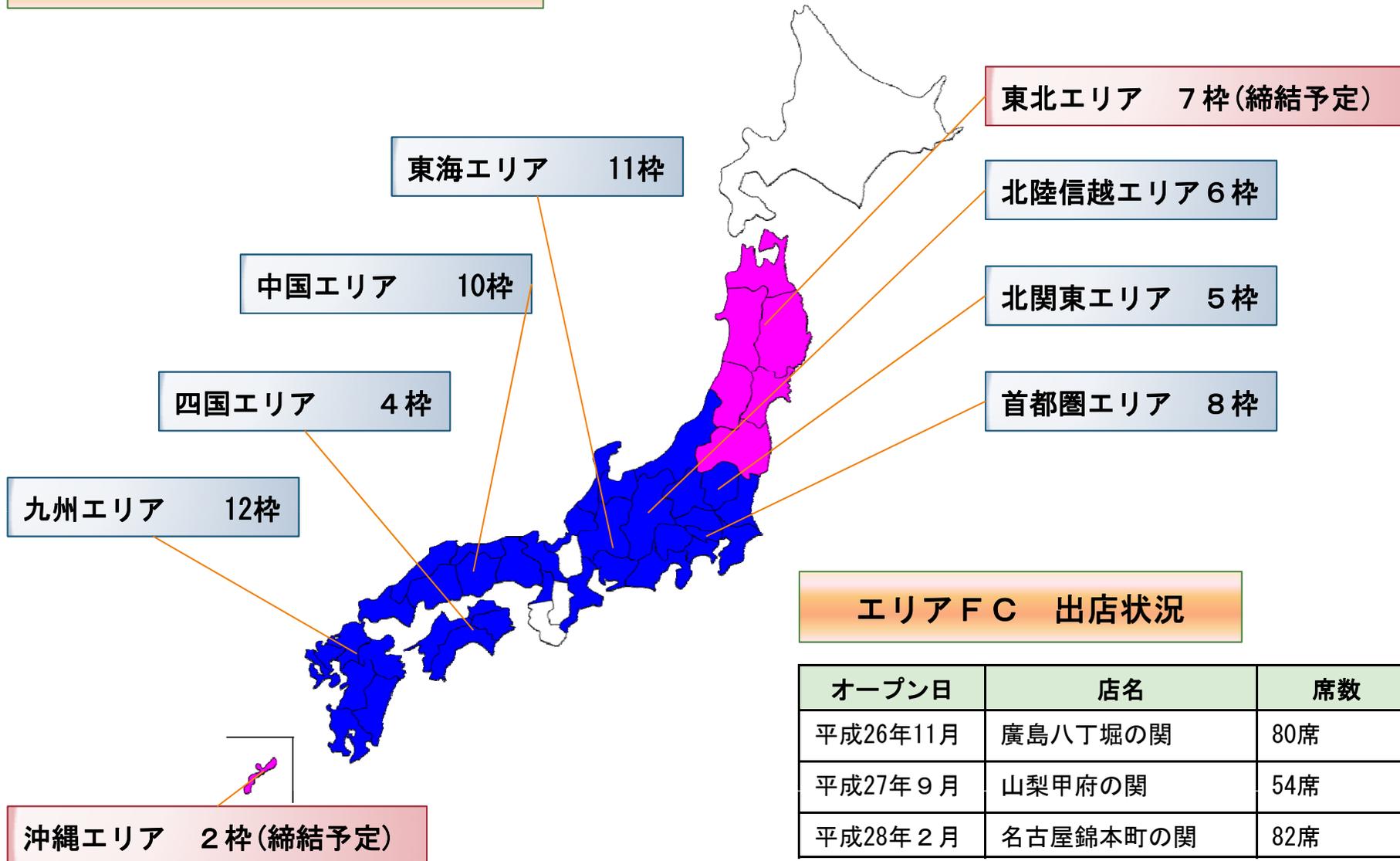
施策効果

- ▶外国人スタッフを軸にした高単価商品（天然コース）のサジェスト強化
- ▶店内サービスおよびインフラ（外国語メニュー、クレジット等）強化
→団体ツアー、個人訪問客の獲得による収益向上

エリアFCの全国展開

エリアFC契約 締結状況

エリアFC契約 56枠締結 9枠締結予定



エリアFC 出店状況

オープン日	店名	席数
平成26年11月	広島八丁堀の関	80席
平成27年9月	山梨甲府の関	54席
平成28年2月	名古屋錦本町の関	82席

設備投資戦略

空間の改善による顧客満足度の向上とC Iの組織内外への浸透化

□平成25年より店舗改装を実施しており、平成28年3月末までに一部の店舗を除き改装を完了する予定

□FC店舗においても随時改装を実施する予定

※当期実績（設備投資61百万円）

◆東日本（池袋・六本木・上野・吉祥寺・他12店舗）

◆西日本（梅田東通・船場・周防町別玄・他6店舗）

◆FC店舗（北梅田・吹田・竹ノ塚）



システム導入による本部機能の強化および効率的な削減

直営全店のPOS切替

現場力強化

マーケティング強化

シンプルオペレーション

基幹システムリプレイス

情報の一元化

経営数字の分析力強化

経営管理力の強化

状況を適時正確に捉え、常に最適な判断を行える体制を作る

組織戦略

生え抜きが社長になる組織文化の構築

組織

次期社長候補となる副社長制の導入に向けた幹部社員対象とした研修制度等、各クラス向けの研修を充実させ、専門家と経営的感覚を併せ持った人財の育成、キャリアパスの選択肢を広げる魅力ある組織の確立

社内教育

全社員・PAが関門海を徹底追及し、強みを武器とした事業展開を可能とする体制（特に営業力、オペレーション力の強化）
前年対比・売上高重視から予算対比・利益重視への思考への移行

総料理長制度

エリアマネージャー、店舗社員とは別に独立した総料理長制度を確立し、オペレーション力強化のため、店舗視察や運営支援を行う組織を強化

労働環境

外食産業トップクラスの従業員満足度とするため、処遇の見直しを実施（給与、評価、福利厚生、労働環境、研修）

財務・経営戦略

財務基盤の充実・キャッシュフローの確保

□不採算事業の撤退／コスト削減

連結子会社である株式会社関門福楽館が運営する「壇之浦パーキングエリア商業施設」の終了を決定（平成28年3月末をもって契約終了）

□株式会社ヤタガラスホールディングス様からサントリー酒類株式会社他への株式売却により、サントリー酒類株式会社様の議決権割合が14.90%となり、大株主第2位となっております

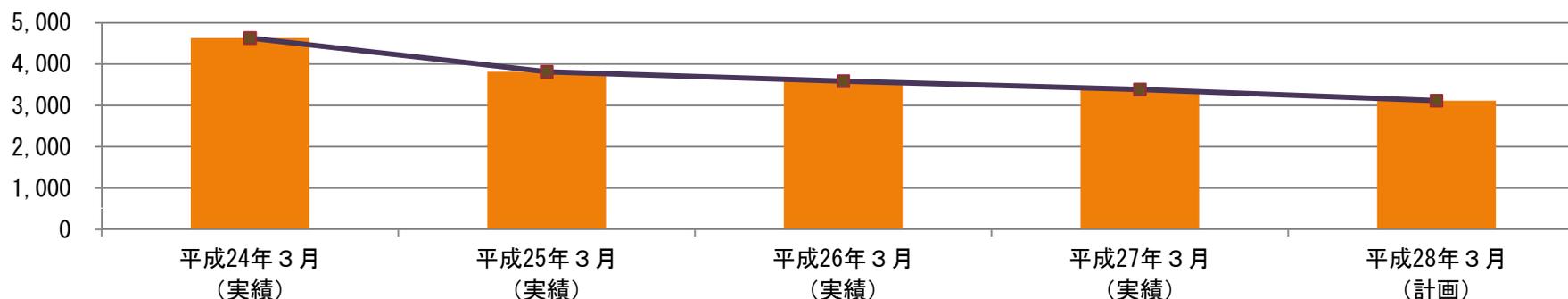
□金融機関との信頼関係強化による柔軟な資金調達の実施、収益向上による財務体質の強化

- ・ 直営店舗の売上高増、FC店舗増加（海外含む）のためにもふぐ一括仕入資金の確保
- ・ 短期借入による資金調達により、閑散期のための資金準備額が減少し、資金効率向上

借入金残高（借入金の推移）

（百万円）

	平成24年3月（実績）	平成25年3月（実績）	平成26年3月（実績）	平成27年3月（実績）	平成28年3月（計画）
借入金残高	4,631	3,816	3,589	3,389	3,117



株価/出来高の推移

2016/02/19			
始値	209円	売買高	190,200株
高値	235円	買い残	--
安値	206円	売り残	--
終値	235円		

2015/04/01 ~ 2016/02/19



「本日はありがとうございました」

＜お問い合わせ先＞

株式会社 関門海

経営支援部

担当：田淵・山口（洋）

TEL：06-6578-0029 E-mail：ir@kanmonkai.co.jp

本資料に記載されている業績予想、計画等の過去の実績以外の記述については、当社の将来の見通しを示したものであり、現時点において入手可能な情報・見通し・判断に基づいて作成しております。実際の業績は、今後の様々な要因によって異なる可能性があることをご承知おきください。

記載された情報によって生じた損失等につきましては、当社は一切責任を負うものではありません。また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。

投資に関する決定はご利用者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。